

#8. Cochran の Q 検定 (JMP 15 新機能)

「JMP 15」では、[多重対応分析]の中で Cochran の Q 検定が実行できるようになりました。CATA 法で評価した際、評価項目間でチェックされた度数の差を検定する方法として Cochran の Q 検定が用いられます。

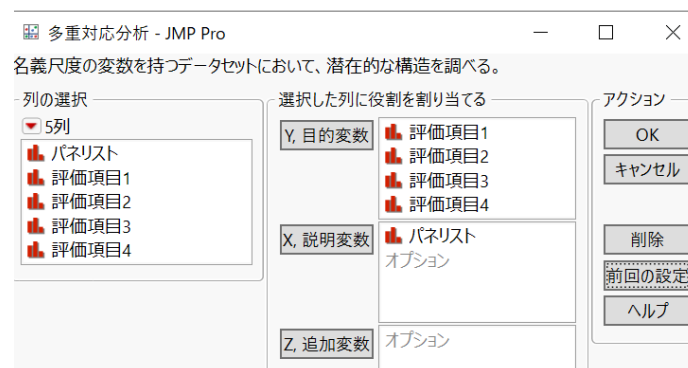
■データの準備

次のようなデータを用意しておきます。必ず個人を特定する「パネリスト」に相当する列と、評価項目(名義尺度)の列が必要になります。

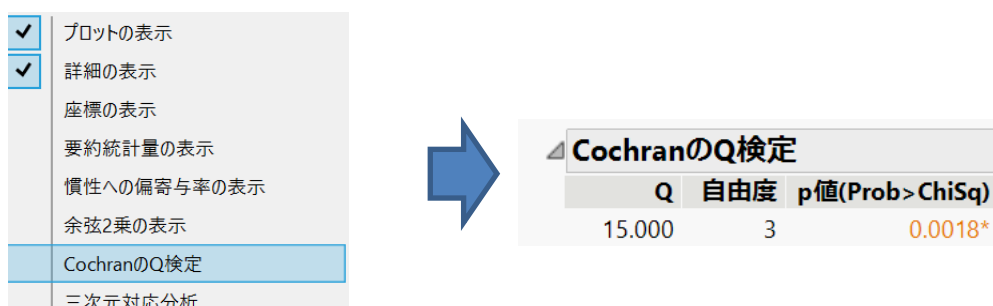
		パネリスト	評価項目1	評価項目2	評価項目3	評価項目4
1		1	0	0	0	0
2		2	0	0	0	0
3		3	0	0	0	0
4		4	0	0	1	0
5		5	0	1	1	0
6		6	0	1	1	0
7		7	0	1	1	0
8		8	1	1	1	0
9		9	1	1	1	0
10		10	1	1	1	0

■操作:Cochran の Q 検定

[分析] > [多変量] > [多重対応分析] を選択し、次のように評価項目に相当する列を [Y, 目的変数] に、パネリストに相当する列を [X, 説明変数] に指定します。



レポート「多重対応分析」の左上にある赤い三角ボタンから、[Cochran の Q 検定] を選択します。



レポートウィンドウ下側に「Cochran の Q 検定」のレポートが追加されます。